

## 【議事要旨】日本教師教育学会課題研究Ⅱ 第四回研究会

- (1)日時 2021年3月13日(土) 19:00～22:00
- (2)場所 オンライン開催
- (3)対象 学会員
- (4)テーマ 大学における教員養成の再構築に向けて：日本学会議「参照基準（教育学分野）」を手がかりに
- (5)スケジュール

- ① 話題提供：「参照基準(教育学分野)」作成過程を振り返ってみて -浜田博文
- ② 話題提供を受けた論点整理-岩田康之
- ③ 質疑応答、議論

### (6)議事要旨

第四回となる本研究会では、大学における教員養成の再構築をテーマに研究討議が行われた。とりわけ、教育学を教員養成課程や、コアカリキュラムにおいてどう位置付けるのか、教員養成で培うべき力とは何か、多様なディシプリンが関わる養成課程におけるカリキュラムはどうあるべきか、といった点が議論された。

まず、話題提供者から「教育学と教員養成課程の関係性がどうあるべきか」という論点が提示された。薬学会と薬学教育を例示し、教員養成においてはこのように単一の学会による主導で進めることが難しい点、現状の養成課程が多様である点などから、多分野とは異なる養成課程、カリキュラム作成の必要性が提起された。また、それに伴って教育学と教育に関連する学問の関係性、学士課程と教職課程の兼ね合いも考慮すべき点だと指摘された。

この話題提供を受け、「カリキュラムと教育学」に焦点を当てたより詳細な検討課題が指摘された。例えば、教職課程で養うべき力と教育学の関係性について、養成課程においては教育に関する知識を身につける（コンテンツ・ベース）だけでなく、教育課題に関して自ら探究し現場で対応できる力を身につけること（コンピテンシー・ベース）が必要であり、そのような批判的・自律的な教育的視点の涵養に教育学が重要だと指摘された。一方で、日本の開放制、教育学部の多様さはカリキュラムの構成原理の錯綜の表れである可能性や、日本

特有の政策とカリキュラムの関係性など、カリキュラムに影響を与えている要因の複雑さも考慮すべきだと指摘された。

これらの問題提起を受け、「教育学と教員養成」、「参照基準とカリキュラム編成」という二つの論点について議論がなされた。まず「教育学と教員養成」について、参照基準における"教育学と教員養成"という項目設定にみられるように、そもそも教育学者たちはこれまで教育学と教員養成の関係について本気で考えてこなかったのではないかという意見や、教師教育学という単一の学問を確立し養成課程を規定すべきといった提案があった。また、教育学を学ぶ意味については、実践の整理・後付けに役立つという意見や、教育行政やカリキュラム形成に対する批判的・自律的な思考形成に寄与する可能性があることが指摘され、そういった点も踏まえて養成課程のカリキュラム経験が実践でどう生かされているのかといった調査が必要だという指摘もなされた。

次に「参照基準とカリキュラム」に関しては、学士課程のカリキュラムとして回収される部分と教職課程に固有の部分の区別、さらには養成課程と研修課程で培うべき力の区別の重要性が指摘された。そういった区別の根拠として参照基準の示す"教育学分野で目指すべき能力"が有用であり、培う能力とカリキュラムのコンポーネントをベースに考えることで、養成課程の多様性が望ましいこととして認められると指摘された。一方で、教科教育を担当する大学教員の多様性や教員間での連携の希薄さから、学生が経験する総体としてのカリキュラムに大学間で大きな差がある可能性も指摘され、カリキュラムの統合を考える役割として教育学、教育学者の役割が重要だという意見があった。

研究会の最後には、これらが一部の学会、一部の研究者で結論づけられる問題ではないという意見もだされ、継続的な検討と、開かれた議論の必要性が指摘された。